

茅ふきたより

巻頭インタビュー

屋根の茅に自分がとけて無になり、
大きな母性をみた

杉山信義さん 茅葺き師 38歳

岐阜県荘川生まれ 飛騨かやぶき 代表

▼茅葺き師 杉山信義さん



- 01 巻頭インタビュー 杉山信義さん
- 02 第3回茅葺きフォーラム開催地
福島県天栄村の紹介
- 04 会員からの報告 湯涌江戸村旧園田家
県内初「金沢産の茅葺き公開」
- 04 会員からの報告 福井県の茅葺き建築物について
- 06 理事の紹介 わたしと茅葺き
- 07 会員からのニュース
富士山麓「朝霧高原」の茅たより
「ふるさと文化財の森」に設定されました
- 07 ニュース・イベント情報
- 08 ニュース・イベント情報

ボクサーになりたくて、中学を卒業してすぐ大阪に出たんです。当時、井岡弘樹がすごかったの、あこがれました。飛び込んだジムで黙々と練習の日々を過ごし、スパリングもこなして。

ものすごく多感だったんです。食べるのにアルバイトしてて、18歳の頃からは不動産関連の仕事で三重とか奈良とかに行つて、古い家を見たり、茅葺き屋根をこわす現場作業をしたり。それで行った先で、お寺まわりなんかもするようになって。おっさんぼうやと呼ばれてました。

何となく自分が、ボクシングするには攻撃性がないことにだんだん気付いていったんですね。一人で登山したり、高野山へ出かけたリしながら、大阪のまちが肌に合わないなあと。そんな中で成人式に荘川へ帰った時、母から、父と一緒に家の仕事をしてくれないかといわれたんです。平成6年でした。

私は5人兄弟の末っ子なんです。誰か父の後を継いでないので、自分が継ぐのいいかなあと。父は昭和50年の創業から、あちこちの神社とか、御母衣ダムに沈んで移築保存された三溪園旧矢篋原家住宅などの茅もさわっていました。それで、父のもとで2年ぐら

い下手間仕事をするんですが、秋は茅刈りに人里離れた茅場へ連れて行かれ、一人置いてきばりに。雨が降ってもです。毎日、迎えにきて「今日はどんだけ刈った」と聞かれるのがいやでした。父とは40も年が離れているので、子の顔を見ればすぐわかるんです。父の言葉はいつも「茅でごはん食べてるから、茅に感謝しろ」でした。

平成15年頃から、少しだけ自分にも仕事が入って来るようになりました。それで17年に父から代を受け継いだんです。仕事の迷いも借金も背負い込んだまま。でも、よその地域で同世代の同業者がいることを知り、元氣をもらいました。茅をしてる人には、優しい人が多いんです。

仕事からはたくさん学んでいます。無駄を省くことや、つながりとか。屋根から道具のガングが出てきて、自分も次の人にバトンタッチする使命感に気付かされたり。屋根をめくると、十数年前に茅を締めた縄がパシッと弛みもせずもあり、それを再び押さえる時に、丹精した先達への思いと技術に同化するような感動を覚えたり、とか。

(聞き手：坂本善昭)

第3回茅葺きフォーラム開催地

福島県天栄村紹介

天栄村産業振興課

1 村の概要

天栄村は、福島県中通り南部に位置し、東西三六キロメートル、南北一三・三キロメートル、総面積235.5km²と東西に大きく、村のほぼ中央に分水嶺をなす鳳坂峠があり、この峠を境に、東部は、雪が少なく太平洋側の気候で、阿武隈川支流の釈迦堂川と竜田川沿いに肥沃な耕地が拓けた農村地帯。西部は、冬期間最大積雪が二メートルにもおよぶ日本海側の気候で、大白森山・小白森山、二岐山などの標高一五〇〇メートル以上の急峻な山岳地帯続き、地域の90%が山林・原野となっています。

二岐川の渓谷、羽鳥湖周辺の高原など変化に富んだ景観が特徴であり、この地域の大半が大川羽鳥県立自然公園に指定され観光ポイントが広がっています。

東日本大震災の影響について

3月11日の東日本大震災により、住宅の全壊が69世帯など本村にとりましては、過去に類を見ない大きな被害を受けました。村では、復興に向けて観光客の来村回復を目指し、風評被害の払拭に力を注いでいます。

湯本地区の放射線量について

福島第一原子力発電所の放射能事故の影響については、湯本地区の空間線量は、約〇・〇ハマイクロシーベルトであり、まったく問題ない数値でありますので、今後とも天栄村に安心してお越し下さい。

2 主な観光地等の紹介

(1) 特産品

①天栄米
天栄村は、福島県の南部に位置し、山々から流れる清冽でミネラル豊富なおいしい水と肥沃な大地に育まれた環境のもと、安心・安全なコシヒカリの生産地域として評判を得ている「天栄米」を生産しております。

また、恵まれた環境の中で生産される天栄米の安全性や良食味を更に発展させ、多くの方に食べていただくために、「天栄米栽培研究会」を発足させ日々創意工夫を行い、おいしい米作りを行っています。

平成19年からは天栄米食味コンクールを開催し、「安心・安全・美味しい」米



▲上 天栄米
▶右 天栄ヤーコン



作りに村民一丸となって取り組んでおります。

②天栄長ネギ

天栄長ネギ生産組合が、土作りから栽培、出荷まで一貫して行い、安心・安全でおいしい長ネギを生産しています。

天栄村の豊かな自然を生かした有機の堆肥づくりこだわり、微生物を繁殖させた腐葉土をから甘くておいしい長ネギができます。

③天栄ヤーコン

村の特産品ヤーコンは、南米案アンデス高地原産。低カロリーにして、フラクトオリゴ糖、食物繊維、ポリフェノール、ミネラルを豊富に含み、整腸作用や血糖値を下げる効果があるといわれる健康野菜です。村では、ヤーコン加工食品を販売するほか、レシピを紹介するなどそのPRにも力を入れています。

(2) 羽鳥湖

周囲一六キロメートル、最大水深三・二メートル、総貯水量二七〇〇万立方メートルの人工湖。水不足に悩む矢吹ヶ原一帯のかんがい用及び発電用として、昭和31年に完成し、鶴沼川をせき止め、約15年の歳月をかけて造られました。以来、村を代表する豊かな自然のシンボルとして親しまれています。「羽鳥湖」の名前の由来は、ダムを造るにあたってダムの底に沈んだ羽鳥集落からつけられて



▲二岐山



▲羽鳥湖

います。現在では、湖周辺はサイクリングロードやオートキャンプ場などが次々と整備され、リゾートエリアとして、注目を集めている観光スポットの一つです。全国のダム湖百選にも選ばれています。

(3) 二岐山

昔、大男がこの山をまたいだという伝説が残る標高一五四メートルの村のシンボル。三六〇度の眺めを誇る山頂は、一面のシャクナゲ群生地としても有名です。毎年5月に山開きが行われ、ブナとあすなろの原生林を求めて、多くのハイカーで賑わいます。

(4) 温泉

① 岩瀬湯本温泉

村の西部にある山間の温泉郷「岩瀬湯



▲岩瀬湯本温泉

本温泉」は、9世紀のはじめごろ、嵯峨天皇が病氣になられ、これを癒すための温泉を探す命を受けた天皇側近の公家、星 右京之助、若狭之助、丹波の3兄弟によって発見されたと伝えられ、温泉八幡神社には、その由緒ある伝説を今に伝える菊花紋章が残されています。

泉質は塩化物泉。長い間湯治場として利用されてきました。ひっそりと建ち並ぶ茅葺き屋根の温泉宿には、昔ながらの風情と素朴な懐かしさがあふれています。

② 二岐温泉

二岐山山麓に湧き出す二岐温泉。その開湯の歴史は古く、およそ一二〇〇年前にさかのぼります。溪流沿いに露天風呂をもつ宿もあり、湯に浸かりながら四季の移り変わりを自然のままに楽しめます。天然そのままの岩風呂と湯煙に漂う風情。山桜が散る青空、時雨の夕暮れ、紅葉の舞う静寂、しんと冷える星空など、露天風呂の醍醐味を十分に味わえるひととき。時には、キツネやタヌキなど森の住民たちもこっそり顔を覗かせます。

③ 羽鳥湖温泉

羽鳥湖高原レジーナの森内にある温泉施設。アルカリ性の温泉で、男女とも大浴場の他に2つの露天風呂があり、川のせせらぎを聞きながら、ゆったりと寛ぐ

ことができます。

(5) 観光施設

① 羽鳥湖高原レジーナの森

羽鳥湖高原にある「レジーナの森」は、水と緑豊かな地に開発された別荘分譲地。現在分譲中の区画には上下水道の他、温泉配管を整備し、蛇口をひねればいつでも温泉が楽しめるようになっていきます。年間を通じた平均気温は九・五度と、夏でも冷房いらず。敷地内には、平成7年のふくしま国体テニス会場にもなった人工芝のテニスコート20面、人造湖・レインレジーナやクラブハウスなど、充実度の高い施設が整備されています。また、周辺にはゴルフ場・スキー場・サイクリングロードなどの施設があり、さらに足をのばせば、裏磐梯、猪苗代湖、那須高原などの観光スポットが点在します。

② プリティッシュヒルズ

日本にいながらにして本物の英国体験ができる宿泊滞在型の国際研修センター「プリティッシュヒルズ」。敷地内には中世の英国の村を再現し、町並み、建物、インテリアはもちろん、スタッフも徹底した英国仕様。バブや温泉プール、テニスコートなどの施設も充実しています。この村全体が研修のステージに。類似体験型カリキュラムを通じて、真の国際人育成を図っています。普段は学生の研修に利用されていますが、民間企業の研

修の他、一般の体験や見学も行えます。

③ ゴルフ場

天栄村には2つのゴルフ場があります。(太平洋クラブ&アソシエイツ白河リゾートと白河メドウゴルフ倶楽部)清々しい涼気に包まれた羽鳥湖高原に広がる2つのゴルフ場は、天栄村の大自然が活かされたコースです。コースから見える二岐山をはじめ、大白森、小白森の雄大な姿は気持ちをしなやかにさせ、心ゆくまでラウンドを楽しめます。

3 茅葺き屋根保存への取り組み

茅葺き文化が息づく里作りを目指して湯本温泉の源泉が沸く「湯口屋」、もう一軒の「分家」など、湯本集落には茅葺き屋根が残されています。全国的には、茅葺きの民家は珍しく、湯本集落の西にある下郷町の「大内宿」は「茅葺き屋根の宿場町」の再現地として多くの観光客を集めており、茅葺き民家再生による地域の活性化を目標としています。

シンボルとなる茅葺き古民家

現在湯本地区には、茅葺きの温泉旅館があり、趣のある情景を作っていますが、茅葺きの文化が息づく里作りシンボルが必要です。そのため地域にあった茅葺き屋根の空き家を改修し、ビクターセンターや地域交流施設として活用していく計画を進めています。

会員からの活動報告

湯涌江戸村旧園田家

県内初「金沢産の茅葺き公開」

NPO法人石川県茅葺き文化研究会



見出しに何それと思われるかもしれませんが、金沢湯涌江戸村に移築保存されている建物の中で、既に数年前から修復され公開されてきた茅葺き農家3棟があり、その屋根には残念ながら地元産の茅が使われておりません。とりわけ、その中の1棟は湯涌地域の山村集落にあったものですが、すでに茅場はなく、しかも地域特有の茅葺き技術も途絶えていて、やむなく県外産の茅と技術で復原が試みられた茅葺き屋根です。また、他の2棟は奥能登から移築されたもので、その地域にはかろうじて今も茅場と茅葺き技術がみられますが、この場合も指定文化財としての考え方の中で、委託された業者さんの茅葺き技術と茅材で修復され、地元産の材料と技術が活かされてはいません。指定文化財建造物の場合、あくまでも明確な技術で、その保存意図を普遍的に捉えて見せることに価値の基本が置かれ、そうした護られ方の施設が各地に多いのも否めません。

今年度、金沢湯涌江戸村で新たに修復

される旧園田家は、湯涌地域に隣接する医王山麓の二俣集落から移築保存されてきたもので、国の重要有形民俗文化財に指定されています。実はこれに先立ち、かつて湯涌地域の茅葺き屋根を支えていたと思われる、カリヤスを主体にした茅場が、平成21年4月に金沢湯涌茅場として文化庁の「ふるさと文化財の森」に設定され、NPO法人石川県茅葺き文化研究会がその管理にあたっています。カリヤスは、五箇山で世界遺産の相倉や菅沼集落でも屋根材として使用されていて、その同じ山系の湯涌でも貴重な屋根葺き材として育てられていたと思われます。そうしたことから、旧園田家の屋根に湯涌産のカリヤスを使ってほしいというのが、NPO茅文研と地元民の願いでした。現状でストックされる湯涌産のカリヤスは、しかし、2尺締めで約四百五十束しかありません。大きな旧園田家屋根の、すべてをまかなうには程遠い量です。それでも何とか混ぜ込んで使われ、今後は差し茅などの補修用に供するなど、地元金沢産の茅に初めての舞台が、こうして小さくとも光が当てられたわけです。そして平成24年5月15日、金沢産カリヤスを含めた茅葺き作業が広く市民に公開され、アピールされました。

この秋にはまた、大勢の子どもたちと共に金沢湯涌茅場で茅刈りが行われ、金

沢産カリヤスが勢揃いする光景は、やはり大きな楽しみです。是非いろんな方々にもご参加いただきたいと思っています。



▲茅小屋遊び



▲茅束づくり

会員からの活動報告

福井県の茅葺き建築物について

森の郷なかなた産物組合 須川 建美



森の郷なかなた産物組合は、茅生産を平成17年より京都府美山町より指導を受け継続して行ってきました。自分達が作った茅という自覚が大きくなるにつれ、その茅がどの様に使われ、どの様な形になっているのか知りたいとの思いが強くなり、県内の茅葺き建築物を調査し「福井県の茅葺き建築物」冊子（建築物の写真と特徴を記した内容。A4版63頁）を組合員研修テキストとして作成しました。

福井県内の茅葺き建築物は、入母屋型が51棟、切妻型が10棟の61棟を確認できました。入母屋型建築物には寄せ棟の大きなものが12棟ありました。

使用目的別に見ますと、公開文化財が25%の15棟、住居が20%の12棟、食堂や宿泊施設が15%の9棟、寺社と舟屋が共に13%の各8棟、堅穴住居等の研修施設が11%の7棟、その他観光施設が2棟ありました。舟屋は三方五湖で漁をするための舟を収納する舟小屋です。

文化財指定の建築物は国が10棟、県と市町が1棟と8棟、その他福井県の伝統

的民家の指定が4棟ありました。

福井県の西部（敦賀市以西）と、北部（南越前町以北）では相違した特徴があります。棟数は西部が31棟、北部は30棟とほぼ同数ですが、西部は住居や舟屋、寺社といった生活に関係するものが31棟中20棟の65%を占めますが、北部では7棟の23%と少数です。反面文化財の指定では、西部は4棟ですが、北部は63%の19棟と多くあります。

茅葺き屋根は西部では大間と小間四角が独立した若狭式で、傷んだ面のみ葺き替え修理が可能ですが、北部は四面が一体型でした。また屋根の頂上部の棟仕舞いは、西部では角材を用いた置千木が多く見られますが、北部では竹を長手方向

に置く仕様がほとんどでした。また、北部では小間の三角部の棟飾りを大きく突き出している角屋（つのや）ステータスシンボルと聞く）を多く見かけますが西部ではほとんどありません。玄関や庭に面した座敷の屋根の一番下には見栄えを良くするために白く綺麗な麻木を並べ、

その上に茅・稲藁・茅の順に重ねた物が地域を問わず多くありましたが、軒下高さは積雪が多い北部は高く、特に豪雪地域にあります大野市穴馬民俗館は4mほどあり、小間には猫窓と呼ばれる明かり採りと冬期の出入り口になる窓がありました。県西部は降雪が少ないことから2m

弱の高さしかありません。

間取りの面では、厩は玄関の直ぐ横にあり、大きな家屋は下男部屋はその上に、下女部屋は台所の上にありました。床の間の裏には和尚さん専用の上（かみ）便所があり地域のよる差はありませんでしたが、県西部では座敷から出入りする和尚さん専用の屋根付門がある住居（この地域では位の高い人は玄関からでなく座敷から出入りする習慣がある）が1軒ありました。

囲炉裏の上の天には勝ち栗、渋柿、丸いパン餅（2番穂、3番穂にできた米を粉にした物に蓬を混ぜた草餅）等の品物を吊るしますが地域による差はありませんでした。

現地で茅葺建築物の所在を聞き取り調査し、現場を訪れますと既にトタンを被せられていたり、廃屋になっていたり減少しているのを肌で感じました。建築文化や生活様式の原点でもありますこれらの茅葺建築物が活用され大切に後世に伝えられていきます事を願っています。



▲坂井市坪川家
角屋の立派さと茅葺き屋根の厚みを含めた豪華さは圧倒される



▲大野市穴馬民俗館 豪雪地帯で軒下が高く猫窓のある建物



▲南越前町板取宿 4棟があり福井県で1、2を争う豪雪地の建物



▲若桜町 三方五湖で漁をするための舟を収納する舟屋

理事の紹介

わたしと茅葺き

内海 美佳

当協会では理事を務めております内海です。当協会の前身である全国茅葺き民家保存活用ネットワークとの出会いは、学生時代に遡ります。大学・大学院と、岐阜県白川村荻町における、茅の育成や葺き替えなどの「茅葺き文化」と景観の変遷について研究をしていました。ネットワークに参加していた白川村の方に紹介していただき、シンポジウムに参加したのをご縁に、現在に至っています。

私には心のふるさとがふたつ——白川村と山梨県北杜市——あります。どちらも、茅葺きが繁いでくれた縁です。

大学4年生の時、訪ねたこともない白川村を卒業論文のテーマに決め、最初は、本や論文を読み漁ってばかりいました。当時の教官に、もうだいふ勉強したからそろそろ現地に行つてよい、と言われ、初めて白川村を訪れた時のことは、未だに忘れられません。写真では、もう飽きるほどに見ていた合掌造りが、想像以上に大きく、茅葺き屋根の厚みとその存在感に圧倒されたことを覚えています。その後、何度も訪れることになる白川村では、たくさんの方にお世話になり、茅葺き替えについてお話を聞かせていた

いたり、中学生に混じって茅刈りをしたり、伝統的な「結い」の茅葺きに参加させてもらったりと、とことん茅とお付き合いさせていただきました。学生生活を終えてからも、どぶろく祭りで巫女をさせていただいたり、毎年、新米の季節になるとお米を送っていただいたりと、素敵なご縁は続いています。

大学院在学中に就職したのは、縁もゆかりもない山梨県北杜市に所在するNPO法人でした。大学時代に民俗建築を学んだ（ということになっている）私は、歴史民俗資料館の指定管理者であるNPO法人に、学芸員として就職しました。山梨では、私がここに来ることを知っていたんじゃないか、と思う出会いがありました。それは、国指定重要文化財「八代家住宅」です。勤めていた小さな町に、その茅葺き民家はありました。個人所有で常時公開されていない文化財建造物ですが、ご当主の八代さんがNPO法人の会員であったこともあり、「八代家住宅」の活用事業にともに取り組みました。文化庁が実施していた「NPOによる文化財建造物活用モデル事業」という（まさに私達のためにあるような）委託事業に応募し、地域の伝統芸能であるお神楽や獅子舞を披露する「八代家でさきどり春祭り」や、カマドでの料理や薪のお風呂など、昔の暮らしを体験するイベントを

2年に渡って実施しました。

日本人が何故だか一様に「懐かしい」と感じ、そして暮らしの温かみを感じる茅葺き民家は、不思議とどのようなイベントをやっても、しつくりときます。ただ、「文化財建造物」というと敷居が高い、と思う方が世間には多いようです。そのイメージを崩し、より多くの方が茅葺きに興味を持ち、訪ねてくれることが目標です。

昨年度より仕事が変わり、直接的に茅葺きと関わることが少なくなりましたが、当協会の活動を通じて、様々な茅葺き職人さんや研究者、その普及に務めている方々と出会えたこと、そしてこれからも出会えることは私の財産です。茅葺き民家の活用、というのは私のライフワークだと勝手に思っておりますので、またどこかでそのお手伝いが出来ればいいな、と密かに思っています。



▲八代家住宅活用事業



▲白川村荻町結い

会員からのニュース

富士山麓「朝霧高原」の茅たより

「ふるさと文化財の森」に

設定されました

NPO法人富士山麓観光まちづくり研究所

理事長 岸野 正美

富士山麓「朝霧高原」の茅たよりとして、「茅ふきたより」第2号で朝霧高原茅場での茅刈技能講座の様子を報告させていただきましたが、平成24年3月2日付で茅場が「ふるさと文化財の森」に設定されました。

朝霧高原の茅場は、富士山西麓の静岡県富士宮市根原地区に約一二ヘクタールの面積に広がるススキの草原です。富士山麓には、朝霧高原の他に同じ静岡県御殿場地域、北麓の山梨県富士吉田市などにも広大なススキの草原が広がり、それぞれ良質な屋根材として出荷されていますが、同じ富士山麓の茅でも当地のものは比較的茅が細く、しなりがあるなどの特徴を持っています。

まだまだ出荷数が少ない状況ですが、(有)富士勇和産業さんを通じて長野県や地元静岡県文化財の屋根材として出荷させていただきます。

なお、設定を記念し東京農業大学オ-

ブンカレッジの一環として、当協会の安藤代表理事などによるシンポジウムが5月19日に行われましたが、6月16日(土)、17日(日)に第二弾としてワークショップ等の講座が開催されます。(http://www.nodaiaac.jp/extension/)

今後も地域の方々や東京農業大学、富士教育訓練センター、私どもNPO法人などの関係者で構成する「朝霧高原活性化委員会」が主体となり、茅場を取り巻く多様な資源や文化などもふまえ、茅に関連するセミナー、フォーラムの開催やイベント等を実施する予定です。



▲朝霧高原の茅場



▲記念シンポジウムの様子

会員からのニュース・イベント情報

第9回全国草原サミット&シンポジウムinみなかみ

「流域コモンズで分かち合う、水源地域の豊かな自然とくらし」

森林塾青水事務局 浅川潔

平成24年10月27日(土)〜29日(月)に、豪雪地帯として知られる群馬県みなかみ町藤原において関東では初めて、草原サミット&シンポジウムを開催します。

その藤原の「上ノ原入会会」は、かつては地域住民が活用していた茅場でしたが、現在では、流域の市民団体、地元住民、行政が三位一体となり、保全と活用に取り組んでいます。春には野焼き、秋には茅刈りが行われ、ここで刈られた茅は、国指定の文化財をはじめ、地域の雲越家住宅や諏訪神社の茅葺き屋根材に使用され、昨年は福島震災仮設住宅の屋根断熱材にも使われました。

ここは、ススキ草原11ヘクタールとミズナラ林10ヘクタールで構成され、中央に十郎太沢が流れ、多種多様な動植物が生息しており、町では「昆虫等の保護を推進する条例」の対象地に選定しています。

今回のサミット&シンポジウムが、自然と人が賢くかかわり合う地域づくりの



▲上ノ原の茅場

す。待っています。



▲雲越家住宅

神戸市北区 茅葺民家「内田家住宅」内部公開

兵庫県指定重要文化財「内田家住宅」の内部を公開し、あわせて、夏休み期間を中心に、夏涼しい茅葺き民家を体験してもらうイベントを開催する。

公開日 5月12日(土)、19日(土)、26日(土)
7月21日(土)、28日(土)、29日(日)、30日(月)、31日(火)
8月1日(水)、4日(土)、11日(土)、25日(土)
9月1日(土)、9日(日)、15日(土)、22日(土)、29日(土)
10月6日(土)、14日(日)、20日(土)、27日(土)
11月3日(土)、11日(日)、17日(土)、24日(土)

*6月と7月の前半は、梅雨時期のため休館。

公開時間：10時～16時

■関連催し

①イベント「風の通り道」

夏涼しい茅葺き民家を体験！夏休みの宿題をしたり、竹トンボや竹筒鉄砲で遊ぼう。

日にち：7月28日(土)、29日(日)、
30日(月)、31日(火)、
8月1日(水)



■問い合わせ先 神戸市 教育委員会事務局 社会教育部 文化財課
電話 078-322-5798 Fax 078-322-6148



川崎市立日本民家園 企画展示「常陸の民家 - 旧太田家住宅 -」

茨城県笠間市方庭より移築された国指定重要文化財・旧太田家住宅について、この名主の家に伝わった古文書や絵図、さまざまな生活用具を紹介する。

期間：7月1日(日)～11月4日(日)

料金：入園料のみ

場所：山下家2階展示室

■関連催し

①展示解説

日時：7月15日(日)、8月26日(土)、9月9日(日)、10月21日(日)
14時～14時20分

場所：山下家2階展示室集合

②民家園講座「古民家の話ー関東の民家」

古民家の解説と内部見学会。企画展示の内容にあわせ、旧太田家を中心とした、関東の民家についての講座。

日時：7月7日(土)、14日(土) 13時30分～15時30分

講師：大野敏(横浜国立大学准教授)、澁谷卓男(日本民家園民俗学芸員)

料金：1,500円

定員：高校生以上30名

申込み方法：往復ハガキ(1人1枚)の往簡に、

住所・氏名・電話番号・希望講座名・開催日を記入し、

〒214-0032 川崎市多摩区柊形7-1-1 日本民家園宛まで。

定員を超えた場合は抽選。

申込み締切：6月25日(月)



〈編集後記〉

巻頭インタビューの茅葺き職人さんのお話を楽しみにしている一人です。職人になったきっかけや当時の話、自然や仕事に対する思いなど、何度も読み返しては学び、反省し、明日への活力になっています。(弥)

茅ふきたより 第7号

2012年6月9日発行(非売品)

発行：一般社団法人日本茅葺き文化協会

編集：茅ふきたより編集委員会

一般社団法人日本茅葺き文化協会

〒300-4231 茨城県つくば市北条184

TEL/FAX 029・867・5829

E-mail info@kayabun.or.jp

URL http://www.kayabun.or.jp

◎みなさんの情報をお寄せ下さい！

茅葺きについてさまざまな情報とご意見・ご要望をお待ちしております。

茅刈り、葺き替え情報大歓迎。事務局宛までお寄せ下さい。